

参考資料

分類名〔病害虫〕

参 11

ダイズほ場におけるダイズサヤムシガの発生消長と被害解析

宮城県古川農業試験場

要約

ダイズサヤムシガの幼虫はダイズほ場で年2～3回発生する。3回目の発生盛期の幼虫密度が高いと被害率・被害粒率が増加する。

1 取り上げた理由

ヒメサヤムシガ類は葉・茎・莢を食害するダイズの子実害虫である。本種は宮城県におけるダイズの主要害虫であるマメシクイガ・フタスジヒメハムシに次ぐ被害をもたらしているが、基礎的な生態や予察技術に関する研究が進んでおらず、発生世代数や発生時期は不明であった。そこで、ダイズサヤムシガの発生消長および幼虫と被害の関係を明らかにしたことから参考資料とする。

2 参考資料

- (1) ダイズサヤムシガの幼虫はダイズで年2～3回発生する。それぞれの発生盛期は7月上旬～下旬，8月中旬～下旬，9月上旬～10月上旬であり，年次やほ場間で変動する（図1）。
- (2) 3回目の幼虫発生量が多いとき被害率・被害粒率が増加する（図2）。

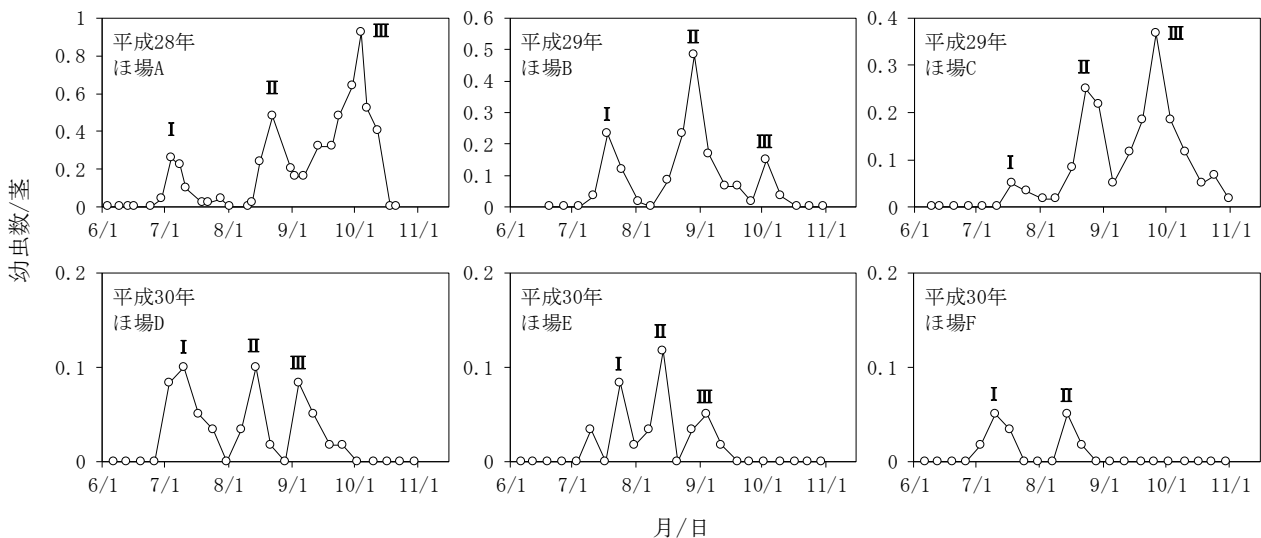


図1 ダイズサヤムシガ幼虫の発生消長（平成28～30年）

注1) 調査ほ場は古川農業試験場ダイズほ場，品種「タンレイ」5月下旬播種，殺虫剤無使用ほ場

注2) 図中のI～IIIは各ほ場の発生盛期を示す。

3 利活用の留意点

- (1) ダイズサヤムシガは莢同士を糸でつづり合わせて，莢と子実を無差別に食害する（図3）。
- (2) 1回目の幼虫発生盛期の時点（7月上旬～下旬）ではダイズ上に莢が存在しないため被害莢を生じる事はないが，展開葉や芽の部分に食入し，葉や茎を綴って食害する（図4）。

（問い合わせ先：宮城県古川農業試験場作物環境部 電話0229-26-5100）

4 背景となった主要な試験研究の概要

(1) 試験研究課題名及び研究期間

ダイズ病害虫の総合的管理技術の確立(平成 26~30 年度)

(2) 参考データ

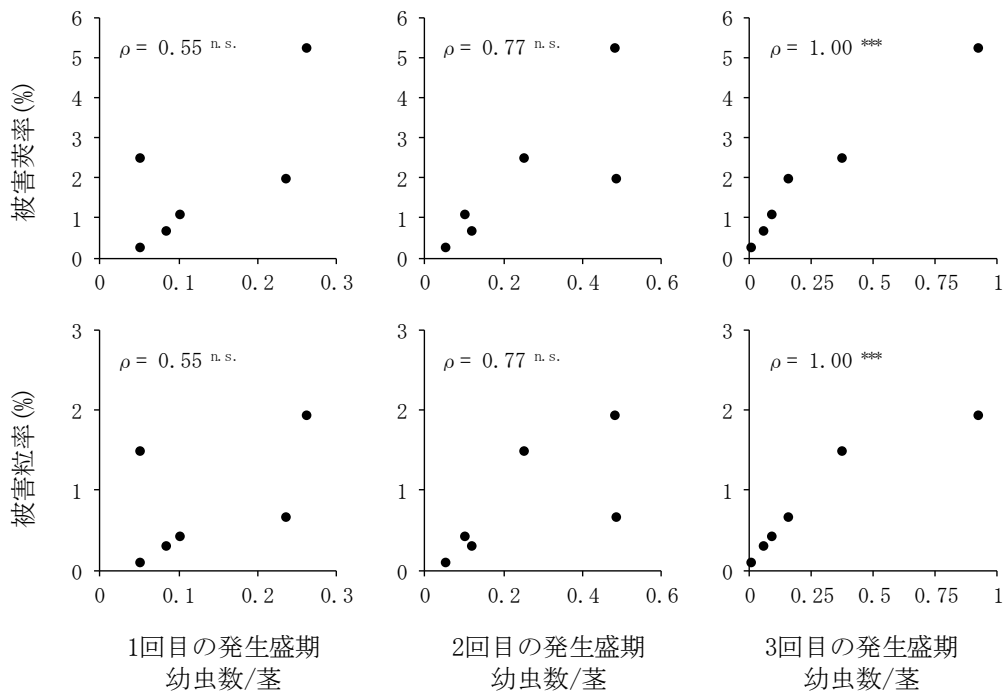


図2 各発生盛期の幼虫数と被害莢率・被害粒率の関係

注1) Spearman の順位相関係数. n. s. : $p > 0.05$, *** : $p < 0.001$ 図1 ダ



図3 ダイズサヤムシガによる被害莢

注1) A: 綴られた莢 B: Aを分解したもの C: 老齢幼虫



図4 ダイブサヤムシガによる展開葉への被害

注1) A: 綴られた展開葉 B: 展開葉内部の老齢幼虫

(3) 発表論文等

イ 関連する普及に移す技術

ロ その他

(4) 共同研究機関

なし